

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度第5回相模原市子ども・子育て会議				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315(直通)				
開催日時		平成31年3月26日(火) 午後6時から8時20分				
開催場所		相模原市民会館 3階 第1大会議室				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	21人(こども・若者未来局次長ほか20人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	6人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 相模原市幼児教育・保育ガイドラインの策定について (2) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画について 4 その他 (1) 平成31年度相模原市保育者ステップアップ研修について 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ(こども・若者未来局次長)

3 議 題

(1) 相模原市幼児教育・保育ガイドラインの策定について

- ガイドラインは理念的なものであるが、ここに書かれている内容を市として実現していくということである。ガイドラインの策定にあたって、部会の構成員として御尽力いただいた委員に感謝申し上げます。

(2) 第 2 次相模原市子ども・子育て支援事業計画について

- 限られた財源や人材のなかで、全てのニーズに応えていくことは、困難である。子ども・子育て会議においては、策定にあたって、今回実施したニーズ調査の結果のほかにも、現行計画や意見書に記載されている事業について、実施できたのか、できなかったのか、実施してどうだったか等の結果を踏まえて意見し、次期計画に反映させていくことが重要である。
- 市長の意向や関係機関の考え方は、どのように反映されるのか。
計画策定にあたっては、委員から意見をいただきながら、これまでの事業の実施結果やニーズ調査の結果を踏まえ、庁内の各事業所管課との調整を並行して進めていき、最終的に市長の承認を得ることになる。策定を進めていくなかでは、市長の意向等も確認し、計画の内容を検討していく。
- 限られた財源のなかで事業を拡充していくときには、何かを削ってでも実施すべき事業もあると思う。予算については議会の判断となるが、子ども・子育て会議においても、例えば仮に、幼児教育・保育ガイドラインの内容にそぐわない事業を市が実施したいということがあるならば、会議の意見として受け入れられない旨の答申することも可能となる。
- 委員が選出団体の意見を集約し、提案や要望を行うのは、どのくらいの時期になるのか。

今後、詳細部分について検討していくため、具体的な時期は未定であるが、 9

月頃に答申をいただくスケジュールとなっているので、夏頃に概ねの案を示せるよう進めていく。その前であっても、意見がある場合はいただきたいが、出来る限り早い時期に、案を作成できるように尽力する。

- 全体像が見えてこない、意見も出しづらいのではないかと思う。
- まずは、考える材料となるための意見を出すことも大切である。また、意見を出す上で必要となる、事業に関する進捗状況や実績、課題等の資料について、表や箇条書きで構わないので用意してもらえると、状況を捉えることができると思う。
- アンケート結果を見ると、まずは、子どもを預けられる場所づくりが大事だと思う。保護者は子どもが成長したのを見るのは、すごく嬉しいと感じているが、一方で、自分の時間が持てないことや余裕が無いという現実もある。幼児教育・保育の無償化も予定されているが、希望する家庭が子どもを預けることができ、質の高い教育・保育を受けられるような環境を整えることが大事である。ネウボラのような、子育て家庭に対する切れ目ない支援についても、こんにちは赤ちゃん事業で1回訪問すれば良いというわけではなく、回数や場所などを充実させ、丁寧な支援をしていくことが、本来のニーズであると思う。
- ニーズ調査の結果やガイドラインを御覧いただき、必要な事業や、充実していくべき施策について、各団体から出来るだけ早い段階で意見等をいただくと良いと思う。

より良い計画を策定していきたいと考えているので、委員や各団体等からいただいた意見は尊重していきたい。財源も限られているなかでは、全てを実施することは難しいが、場合によっては代替案なども提示できると思っている。

- 障害関係の話になるかもしれないが、放課後等デイサービスの制度を利用していることにより、学校まで保護者が子どもを迎えに行くというケースが少なくなってきたと聞いている。障害が分かったときには、保護者はとても熱心に子どもと関わっているが、支援を受け始めると、専門家に預ければよいと考えてしまうことが多いように感じる。しかし、それでは子どもも保護者も育たない。幼少期からの関わりはその後の子どもの成長に大きく影響してくるので、まずは保護者の意識を変えていってほしいと願っている。
- 子育て広場に関しては、個々で実施している団体が多く、連携をとりたいたいと思っても、なかなか上手く出来ない。団体のリーダーも、その多くが高齢者であって、子育て支援者をどのように増やしていくべきか、若い人をどう育ててい

くかについて一緒に考えていきたいが、そのような連携が出来ない現状がある。

子育て広場の連携については、情報交換会を実施して、様々な意見交換ができる場を設けている。

- 当事者である委員からこのような話があるということは、市で取組を行っていても、結果が伴っていないということである。それでは意味がないのではないか。

市としては、現状を改善して、より良い結果が出せることや、現場で関わっている方々が良くなったと感じてもらえることを目的として、情報交換会を開催している。今まで不十分な点もあったと思うが、今後も様々な場面で話をさせていただき、現場のニーズに沿うような取組を行っていきたいと考えている。

- 前回の計画策定の際には、子ども・子育て新制度が始まったこともあり、多くの時間をかけて、市民や団体からの意見を自由に出してもらい、ワークショップも開催した。今回は、前回の施策体系を踏襲するとのことだが、大幅に変えようという部分がないということは、さらにまだ課題があるということと捉えている。しかし、言葉の使い方や持っているイメージについて、市の職員と委員や団体の方々との間に相違があるようにも思えるので、認識の違いをなくすためにも、様々な意見をいただき、どのように反映するか検討していかなければならない。現行計画に付している意見書については、会議としての強い意向があって掲載した経緯があるが、ネウボラに関しても、その研究・検討について、何も話がなかったことが残念である。ワンストップの窓口として各区に子育て支援センターを設置し、前進はしたと思っているので、市が今後実施していききたいことを、計画や事業によって形にしていくことについて、協働していきたいと思っている。

- 団体からの意見をもらうということであれば、全体の資料やニーズ調査の結果、意見書に対する実施状況等を踏まえて、市がどのような課題を感じているか、どの部分のアイデアや意見が欲しいかといったことを分かるように提示してもらいたい。

- 実際に市がどのように感じているかは、団体でも分からないし、事業一つひとつに意見を出していくと切りがないと思っているので、市の考え方を示してもらえるとよいと思う。

- 児童クラブ関係の資料を見たときにも、この場で発言しきれない意見等がたくさんあった。何らかの方法で、全て提出したいと思っているので、事務局に対応してもらいたい。

- 計画策定部会には、幼稚園や保育園関係の委員が構成員となっていないが、そ

の団体選出の委員が部会に参加することはないのか。

- 部会の委員構成は、今後どのようになるのか。

今年度は、幼児教育・保育ガイドライン策定部会の構成員となっていたため、委員構成を考慮したが、今後は部会が計画策定部会のみとなることや委員の改選もあることから、来年度の第1回の会議の際に部会の構成員について、お諮りいただく予定である。

4 その他

(1) 平成31年度相模原市保育者ステップアップ研修について

- ステップアップ研修は、保育の質の向上のための具体的な施策の一つであるので、引き続き取組をお願いしたい。

5 閉 会

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
1	朝比奈 太 郎 相模原市私立保育園園長会	出 席
2	荒 井 美由紀 相模原市立小中学校長会	出 席
3	遠 藤 靖 明 公募市民	欠 席
4	岡 健 大妻女子大学家政学部児童学科教授	出 席
5	片 山 知 子 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
6	木 村 徳 泰 日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠 席
7	永 保 貴 章 一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
8	西 谷 八千代 みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
9	馬 場 眞由美 相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
10	藤 井 春 美 相模原市学童保育連絡協議会	出 席
11	前 田 園 寛 相模原保育室連絡協議会	欠 席
12	松 原 充 子 特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
13	村 瀬 麻衣子 一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
14	山 崎 和 正 相模原商工会議所	欠 席

会長 副会長